

# きた せい そう こう じょう 北清掃工場

## 北清掃工場のしよかい

工場のある場所：相模原市緑区下九沢 2,074 番地の 2

工場の広さ：22,957 m<sup>2</sup>

工場をつくるのにかかったお金：約 148 億円

工場ができた年月：平成 3 年 12 月

もやせるごみの量：1 日あたり 450 トン（150 トン×3 炉）

ごみピットの大きさ：長さ 45m、幅 13m、高さ（クレーンまで）約 27m

えんとつの大きさ：幅 8m、高さ 80m

ごみクレーンの大きさ：開いた状態 16 m、1 回で約 2～3 トンつかむ

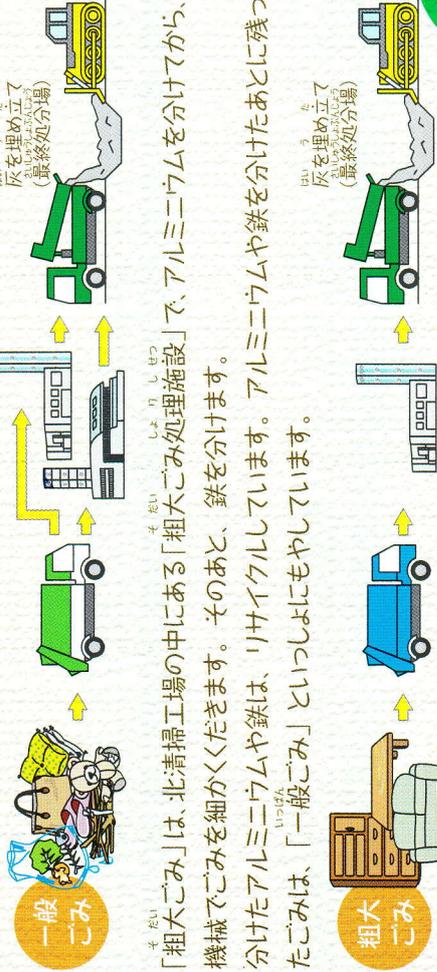
発電する力：2,625 キロワット

工場の施設：ごみ処理施設、粗大ごみ処理施設、管理棟



## 北清掃工場で処理しているごみの種類

相模原市には、ごみをやす工場が2か所あります。家から出されたごみのうち、中央区と緑区の「一般ごみ」は、北清掃工場でもやっています。南区と緑区（津久井クリーンセンターから運ぶごみ）の「一般ごみ」は、南区にある南清掃工場でもやっています。



「粗大ごみ」は、北清掃工場の中にある「粗大ごみ処理施設」で、アルミニウムを分けてから、機械でごみを細かくできます。そのあと、鉄を分けます。

分けたアルミニウムや鉄は、リサイクルしています。アルミニウムや鉄を分けたあとに残ったごみは、「一般ごみ」といっしょにもやしています。

## 北清掃工場のくふう

### 環境を守るためのくふう

- ごみをもやしたとき出るガスやばいじん（ちり）は、機械と薬を使ってきれいにしています。
- ごみを高温（850 度～1050 度）でもやすことにより、ダイオキシンが出るのをおさえます。
- ごみピットから出るおいは、出入り口に空気のカーテンをつけて、工場の外に出ないようにしています。
- ごみピットの中の空気を焼却炉の中へ送って、においをとりまします。
- 音が外に出ないようにしています。

### 資源として再利用する

- ごみをもやして出てきた灰の中と粗大ごみから、金属（アルミニウムや鉄）を回収しています。これらの金属は、リサイクルしています。

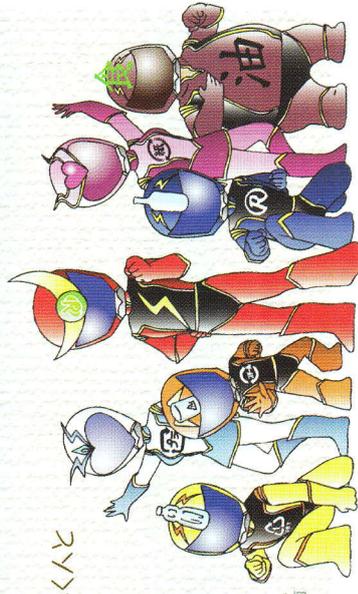
### 熱エネルギーの利用

- ごみをもやすときに出る蒸気を利用して、発電（電気を作る）しています。この電気は、工場で使うほか、あまったときは、電力会社に売っています。

- 蒸気は「北の丘センター」のプールやお風呂の水を温めることにも使います。ほかに、工場の冷暖房にも使っています。

### 安全にごみをやすためのくふう

- 中央管制室では、いろいろなコンピューターステムを使っています。中央管制室の人は、モニター画面を見ることにより、焼却炉が安全に運転されていることや異常がないことを一日中、24 時間監視しています。
- （中央管制室の人は、昼間はたくさん、夜はたらく人の 2 交代制です。）



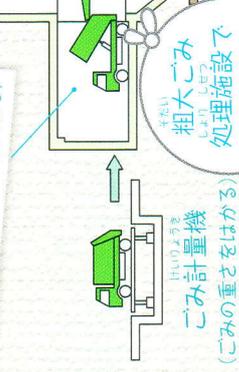
相模原市緑区  
分別収集センター

# 北清掃工場のしくみ

ごみ収集車で集めたごみや運びこまれたごみは、ごみピットに入れられ、ごみクレーンで焼却炉の入口に運ばれます。そこからごみは、少しずつ焼却炉の中に押し入れられ、もえながら下に落ちていき、灰になって出てきます。ごみの焼却は、1日24時間、毎日行われています。

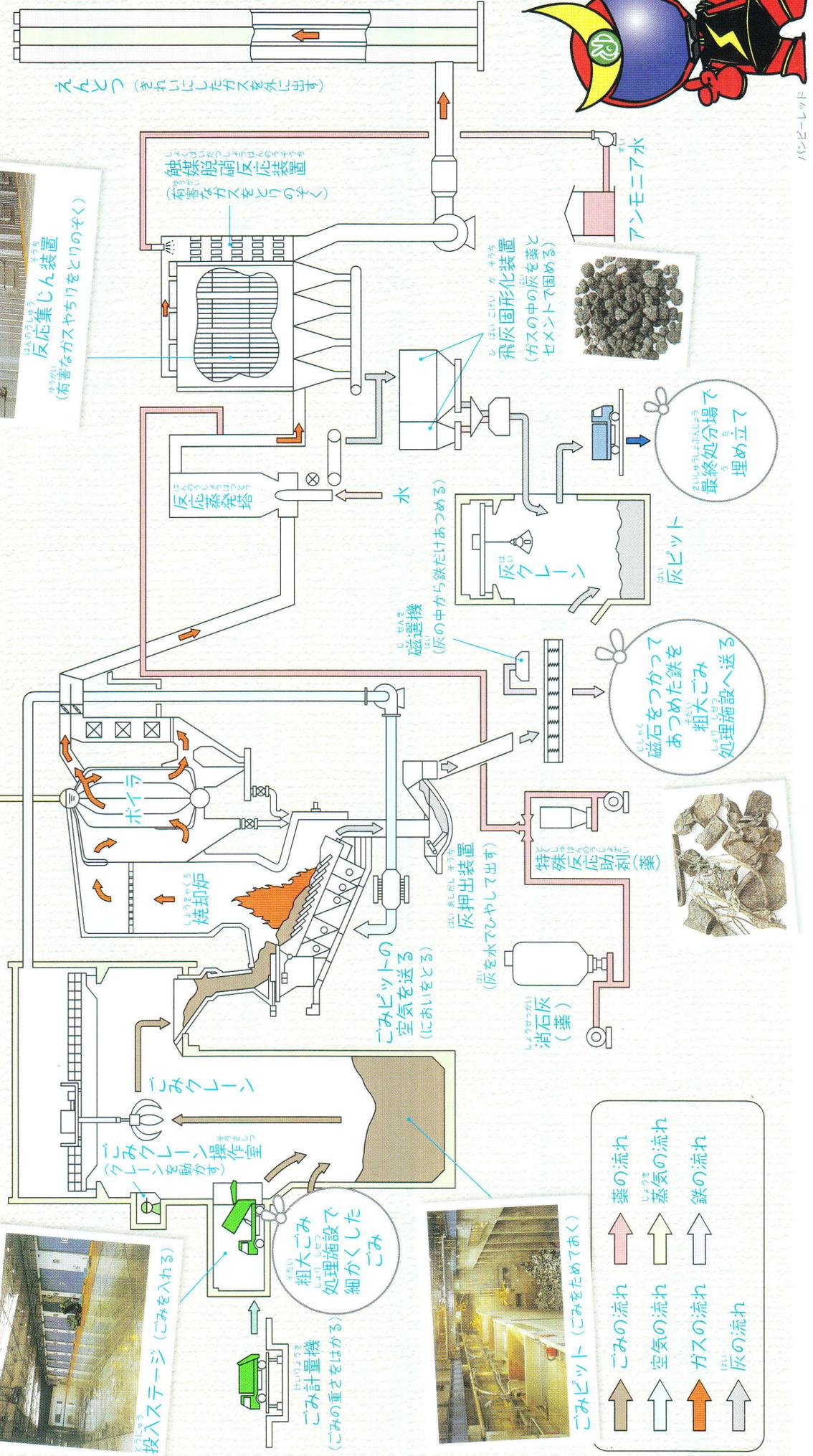


投入ステージ (ごみを入れる)



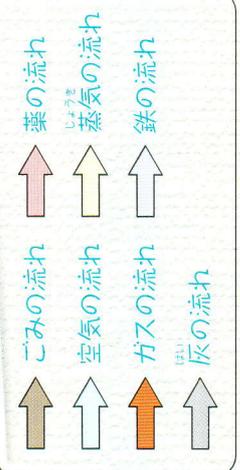
ごみ計量機 (ごみの重さをはかる)

粗大ごみ 処理施設で 細かくした ごみ



反応集じん装置 (有害なガスをとりのぞく)

蒸気タービン発電機 (発電する)  
工場内冷暖房  
北の丘プール (水をあたためる)



磁石をつかって あつめた鉄を 粗大ごみ 処理施設へ送る



飛灰固形化装置 (ガスの中の炭を薬とセメントで固める)

最終処分場で 埋め立て

